

2019年12月15日(日)、広島市中心身障害者福祉センターにおいて、HBG重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」(協力:研究ブランディング事業「スポーツ・健康福祉部門」)が開催された。参加者は、広島県内在住の子供達24名(内、5名が体調不良等を理由に欠席)であった。参加した子供達は、身体、および知的にも最重度の障害があり、参加者の半数が吸引や注入等の医療的ケアを必要としている。

一般ボランティア支援者は、特別支援学校教諭を中心に、高等学校教諭、小学校教諭をはじめ、理学療法士、作業療法士、看護師、福祉施設指導員等21名が参加した。一般ボランティア支援者には、他県(京都、鳥取)からの参加もあった。学生ボランティア支援者は、広島文化学園大学の学生17名(スポーツ健康福祉学科、健康福祉学科、グローバルビジネス学科)、広島大学霞アダプテッド・スポーツクラブの学生10名、総勢27名が参加した。広島文化学園大学の学生で、プロ野球日本ハムファイターズからドラフト6位指名を受けた野球部の梅林キャプテンが参加し(写真1、2、3、4)、次のようなコメントが寄せられた。

アダプテッド・スポーツ「HBG はなまるキッズ」ボランティアを体験して！

社会情報学部・グローバルビジネス学科4年
硬式野球部主将 梅林優貴

私は、2019年12月22日(日)に、大学の先生や野球部員の後輩でHBG はなまるキッズのボランティア学生からの誘いで、重度障害のある子供のアダプテッド・スポーツボランティアに、今回初めて参加しました。私は、小学校一年生の時から中学校三年生まで障害がある同級生とずっと学校生活を共にしていました。障害がある同級生とは家が近いこともあって、仲の良い普通の友達として接していました。このような経験があったことから、障害のある方との交流には少し関心がありました。

普段野球部でトレーニングを続けていて体力には自信がありましたが、重度障害がある子共に姿勢保持のサポートをしながらスポーツを補助していると、野球のトレーニングとは全く違う筋肉を使っていて、自分が思った以上に何倍も支援が大変でした。重度障害のある子供達と、なかなかしっかり会話することは出来なかったのですが、話しかけた時にうなずいてくれたり、笑顔になってくれたりするほんの些細な事がすごく嬉しくて、今まで感じたことのなかった感情になりました。

私は一回だけの「HBG はなまるキッズ」ボランティアの参加になりましたが、今後のプロ野球生活のシーズンオフには、毎年一回だけでも広島に戻り参加したいと思っています。今回の貴重な体験を今後のプロ野球人生に活かしていきたいと思います。

また、修道大学協創高等学校教諭1名と2年生の生徒2名の参加もあった。参加した高校生からは「参加して楽しかった!」「初めての参加で緊張したけど、今度は今日よりもっと頑張ってみたい!」等の感想が寄せられた。

当日の参加人数は、子供、ボランティア支援者(一般・学生)、参加した子供の保護者を含めると総勢およそ 90 名であった(写真―5)。

子供達は、主体的に活動できるスクーターボード運動やトランポリン運動等を楽しみ、笑顔もたくさん見られた(写真―6、7、8、9)。また、特別支援教育の専門家や医療、福祉職等のボランティアと学生が共にグループになって子供達と活動することにより、互いに交流を深めながら体験的に学びを深めることができ、支援サポーター養成へとつながった。

なお、2020 年 2 月 29 日(土)は、支援サポーター養成公開講座として、第一部(午前)は HBG はなまるキッズ教室の開催、第 2 部(午後)は公開研修会「①重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツについて(仮)」、「②保護者、支援者、学生による支援のコツや体験談の報告(仮)」を計画している。今後も、障害のある方々のアダプテッド・スポーツ活動の充実とサポーター養成に努めていきたい。

HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動「はなまるキッズ」代表(広島文化学園大学)